O3-013

A大学児童学科保育士養成学生への医療保育専門士の認知と授業の効果（その1）

鈴木　智子[1]、辻　　京子[1]、松尾麻衣子[2]
[1]四国大学　看護学部
[2]福岡大学病院看護部

近年、悪性新生物など慢性疾患の治療のため長期入院を経験した子どもや医療的ケア児の保育所利用が増えている。そこで、今回、授業を通して大学病院小児病棟で病気の子どもへの保育を担う医療保育専門士の活動を学ぶ授業を通して授業効果の実態調査を目的とした。A大学保育学生の認知と今後の保育教育への示唆を得たため報告する。

【方法】

A大学児童学科2年生の保育士養成科目「子どもの健康と安全」の1コマを大学病院小児病棟所属の医療保育専門士に役割と実際に関する講義を依頼した。本授業は保育における日常の健康管理、子どもの体調不良時の保健的対応が主な概要である。医療保育専門士からの講義の前に調査の主旨と未回答による成績への影響はなく調査参加の同意は自由であると口頭で説明し、匿名にてGoogleアンケート回答をもって同意を得たとみなした。集計は単純集計とした。

【結果】

講義に参加した学生48名のうち、調査の回答は34名（70.8%）から得た。医療保育専門士の仕事の認知について、授業前は、わからない・ややわからないは24名、ややわかる10名であったが、授業後はややわからないが1名、ややわかった16名、よくわかった17名と仕事への認知者数は増えた。学びの達成度の自己評価結果は、医療保育士の活動の現状、病気の子どもが楽しめる遊び、子どもに応じたかかわり、保護者へのかかわり、親子のニーズ、安心してすごすための環境づくり、病気の子どもへの保育実践と7項目すべてにおいてそう思う、大変そう思うと評価していた。授業内容の評価に関しては、学習目標が明確、授業内容がよく計画されていた、授業学習量が適切、医療保育士への興味について4項目すべてにおいてそう思うと回答を得た。役に立った内容の自由記載では、病気の子どもとかかわるための医療保育の活動や遊びの工夫を学べた。保育士として選択肢が増えたとの回答があった。

【考察】

医療保育専門士は日本医療保育学会による認定資格で平成21年度に第1期生が誕生して10年間に医療保育専門士が活動しているもののまだまだ認知されていない現状であることがわかった。今回は4年制大学の2年生であったこともあり今後学ぶ機会があると考えるが慢性疾患の子どもが治療継続しながら社会参加できる環境の実現には、保育士や幼稚園教諭を目指す教育機関での授業が効果的であった。報告すべきCOIはございません。

O3-014

4年制大学の保育士養成課程の学生における医療保育専門士の認知と授業の効果 2報

辻　　京子、鈴木　智子、松尾麻衣子
四国大学

【はじめに】

近年，さまざまな難病や障害を抱える子ども、家族や学校などの社会関係の影響を無視できない病気の子どもが増えている。こうした子どもとその家族の支援のニーズは多様で複合的であり、医療と保健、福祉、教育など、さまざまな分野の専門職が協働し，ケアすることが求められている。そこで，今回，授業を通して大学病院の小児病棟で病気の子どもへの保育を担う医療保育専門士の活動について，保育士を目指す学生の認知と今後の保育教育への示唆を得ることを目的とした。

【方法】

対象は，A大学児童学科2年生の保育士養成課程科目「子どもの健康と安全」（2単位）を受講している学生48名である。講義の1コマを大学病院小児病棟に勤務する医療保育専門士に依頼した。講義内容は，医療保育専門士の業務内容と役割である。受講後，学生が作成したレポートを分析の対象とし，質的機能的に分析した。講義前に調査の主旨と調査参加の同意について口頭で説明した。

【結果】

受講前は，医療保育専門士という言葉を知っていたが，役割は知らない学生が多かった。学生は講義を受講することで，医療保育専門士の役割を理解していた。その内容を3つのカテゴリに分類することができた。学生は，医療保育専門士の役割は〈子どもの命を預かる職業〉であり，治療中の子どもの変化に気づき，また，検査や治療がスムーズに行えるように医療の知識を持ち，医療従事者と情報共有し連携すること，〈子どもの不安を軽減するための工夫〉として，治療や訓練を遊びの一環として取り入れることや病室の壁紙の色や掲示物で雰囲気を変えること，身体や頭を使う活動を取り入れ生活の中に楽しみをつくるためのレクリエーション的な知識やスキルをもち，子どもの基本的生活習慣が確立できるような工夫をすること，さらには，〈支援の対象としての家族の存在〉があり，保護者は子どもの医療に関する意思決定の責任があること，子どもの精神的な支えをする家族の役割は大きいことによる，負担が生じやすいため，家族の気持ちに寄り添うという役割があることを理解していた。

【考察】

医療保育専門士の活動はまだまだ周知されていない現状がある。慢性疾患の子どもが治療しながら社会参加できる環境の実現には，保育士や幼稚園教諭を目指す学生への医療的知識や医療現場での保育支援の必要性を認識する機会として，今回の取り組みが効果的であった。

Presented by Medical*Online